

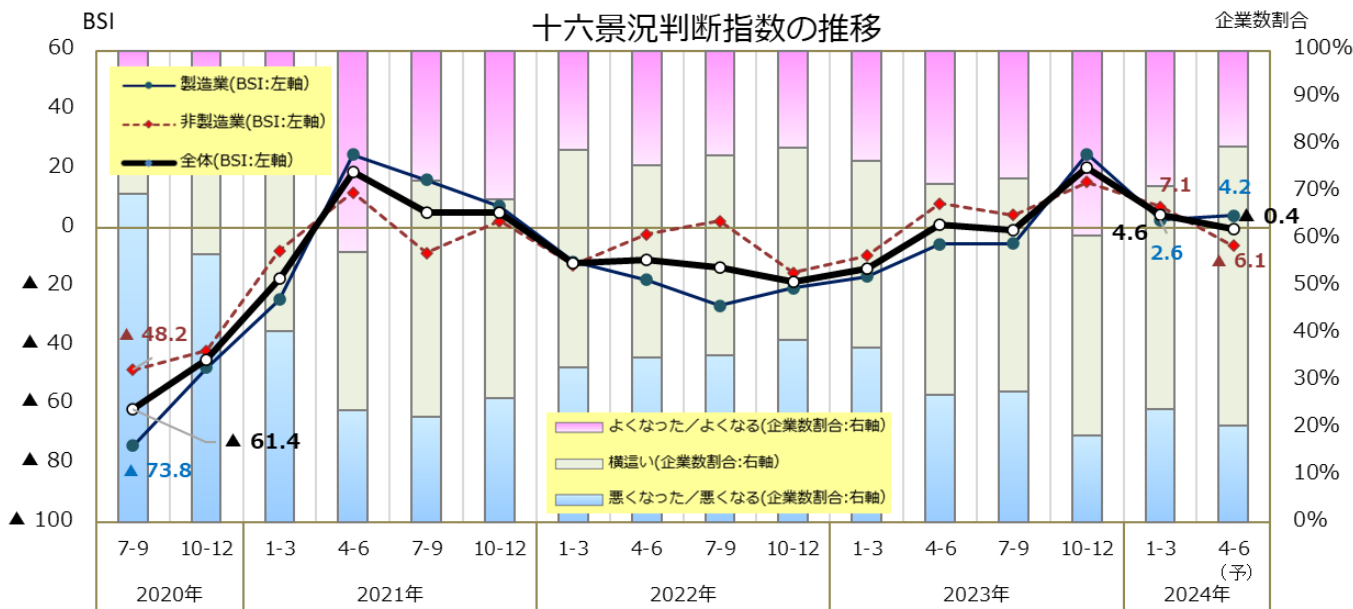
# 第206回 東海地区企業動向調査

『2024年1~3月期 十六景況判断指数 調査報告』

- ① 十六景況判断指数は4.6（前期比16.0 暴減）と大きく低下した。来期は▲0.4（今期比5.0 暴減）とさらに低下する見込み。
- ② 経営上の最大の問題点は、製造業では「仕入商品・原材料高」（32.7%）が10期連続の1位。非製造業では「求人難」（33.0%）が2期連続の1位。
- ③ 設備投資を実施した企業の割合は31.3%（前期比8.8 暴減）と低下したものの、前向きな投資は増加傾向にある。

### 調査要領

1. 調査方法 岐阜県、愛知県の企業に対し、Webと郵送を併用しアンケートを実施
2. 調査時期 2024年3月1日~15日
3. 調査期間 2024年1月~3月期 実績（見込み）  
2024年4月~6月期 予想
4. 回答状況 有効回答数217社（岐阜県、愛知県の企業600社、有効回答率36.2%）
5. 本調査の経緯 第1回調査 1966年1月(半期ごと)、1980年6月より四半期ごと



### \* 十六景況判断指数

岐阜県、愛知県内の企業、600社を対象に、自社の業況について、前年同期と比べて「よくなった/よくなる」と回答した割合から「悪くなった/悪くなる」と回答した割合を差し引いて求めた指標

### \* BSI (Business Survey Index)

各項目につき、前年同期と比べて好転(増加・上昇・容易・過大)と回答した割合から、悪化(減少・低下・困難・不足)と回答した割合を差し引いて求めた指標

## 1. 今期実績と来期予想

### (1) 十六景況判断指数

十六景況判断指数は、4.6(前期比 16.0 増減)と大きく低下した。業種別にみると、製造業は 2.6(同 22.4 増減)、非製造業は 7.1(同 8.5 増減)と特に製造業が大きく低下した。

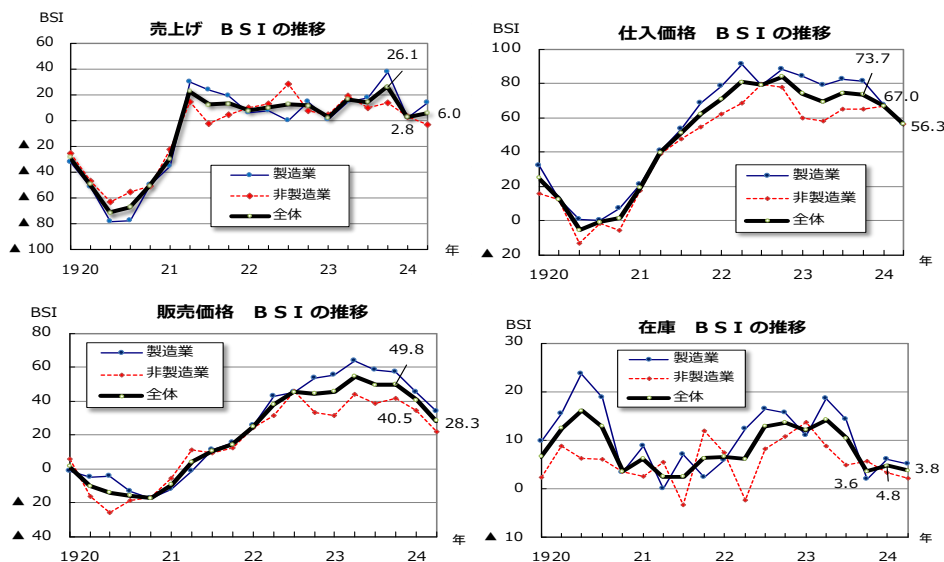
今回の調査対象期間である 2024 年 1 月には自動車の認証不正問題や能登半島地震があり、自由コメント欄では「コンプライアンス違反および自然災害、客先合理化の影響がまだ把握できないため、今後の状況が全く見えず対応に苦慮(愛知・輸送用機械器具)」、「石川県の震災による影響で生産ラインへの部品供給が不安定となり受注量ダウン(岐阜・プラ

スチック・その他製造業)」などの声があり、製造業を中心に景況感を押し下げたとみられる。

来期の十六景況判断指数は▲0.4(今期比 5.0 増減)とさらに低下し、マイナスに転じる見込みである。業種別にみると、製造業は 4.2(同 1.6 増減)、非製造業は▲6.1(同 13.2 増減)と非製造業で大きく低下する見込みである。

原材料価格や人件費、物流コスト、そして円安による輸入コストなど、あらゆるコストの上昇が続いていることや、海外経済の減速懸念などが景況感の下振れ要因になっているとみられる。

### (2) 各項目の BSI の推移



売上げ BSI は 2.8(前期比 23.3 増減)と大きく低下し、来期は 6.0 と上昇する見込みである。

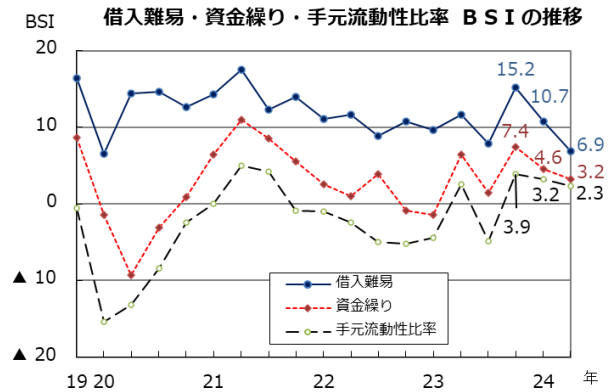
仕入価格 BSI は 67.0(同 6.7 増減)と低下し、来期も 56.3 と大きく低下する見込みである。

販売価格 BSI は 40.5(同 9.3 増減)と低下し、来期も 28.3 と大きく低下する見込みである。

在庫 BSI は 4.8(同 1.2 増減)とやや上昇し、来期は 3.8 とやや低下する見込みである。

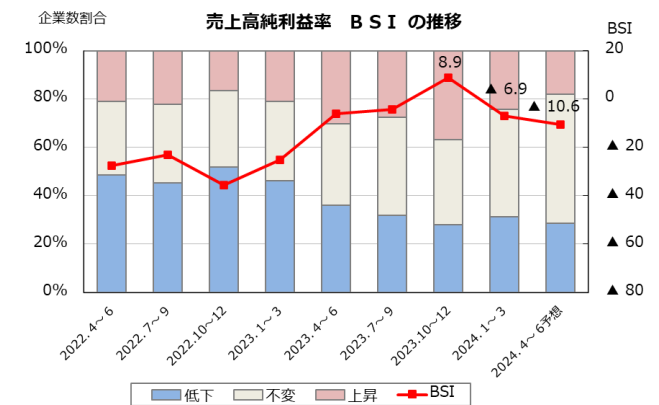
### (3) 借入難易・資金繰り・手元流動性比率

今期の借入難易 BSI (容易-困難) は 10.7 (前期比 4.5 増減)、資金繰り BSI (楽-苦しい) は 4.6 (同 2.8 増減)、手元流動性比率 BSI (上昇-低下) は 3.2 (同 0.7 増減) といずれも低下した。来期の借入難易 BSI は 6.9、資金繰り BSI は 3.2、手元流動性比率 BSI は 2.3 といずれも引き続き低下する見込みである。



### (4) 売上高純利益率

今期の売上高純利益率 BSI は▲6.9 (前期比 15.8 増減) と大きく低下した。低下要因は「売上げ減少」が最も多く 56.7%、次いで「原材料・仕入商品高」が 28.4%だった。来期は▲10.6 とさらに低下する見込みである。

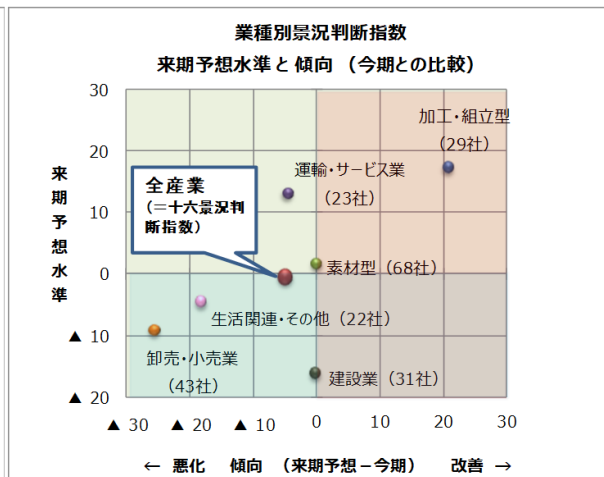
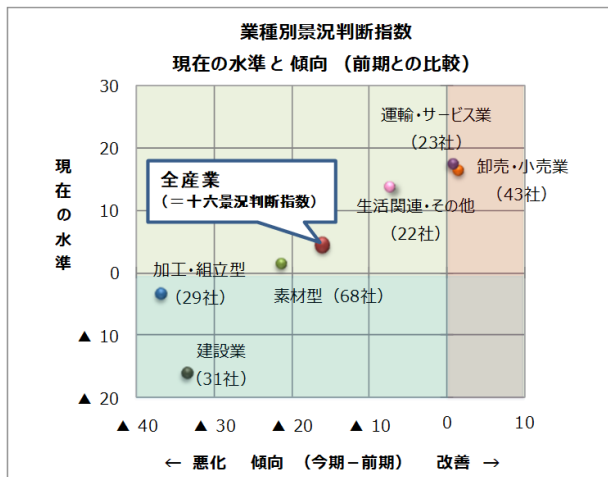


## 2. 業種別の動向

調査対象から鉱業を除いた 20 業種を 6 グループに分け、景況判断指数の水準と傾向を示した。今期は卸売・小売業と運輸・サービス業で BSI (よくなった-悪くなった) が前期比やや改善したが、それ

以外のグループでは大きく低下した。

来期は加工・組立型で BSI が今期比大きく改善し、その他のグループでは横ばいもしくは悪化する見込みである。



#### 注) 【製造業の分類】

素材型： 木材・木製品、紙・紙加工品、化学工業、窯業・土石製品、鉄鋼・非鉄金属、刃物・金属製品、プラスチック・その他製造業

加工・組立型： 一般機械器具、電気機械器具、輸送用機械器具

生活関連・その他： 食料品、繊維工業、衣類その他繊維製品、家具・装備品、出版・印刷

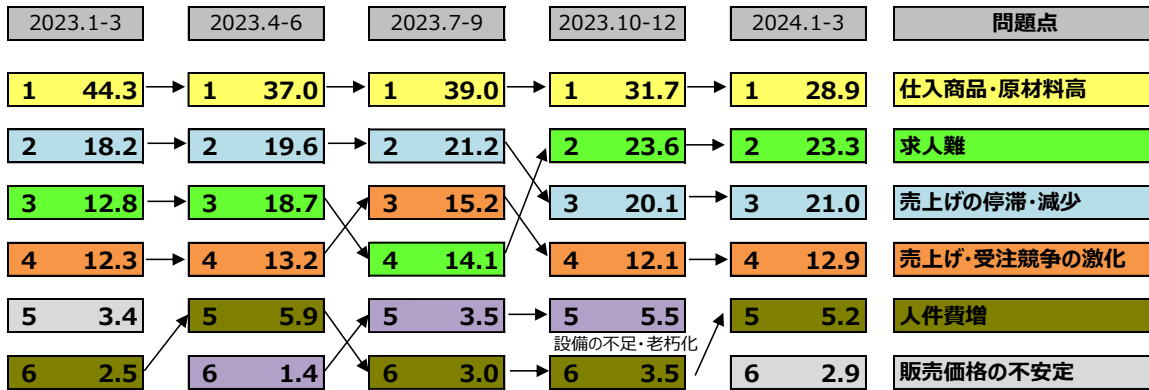
※「鉱業」は回答企業数が少数であったため、分析の対象外とした。

### 3. 当面する経営上の最大の問題点

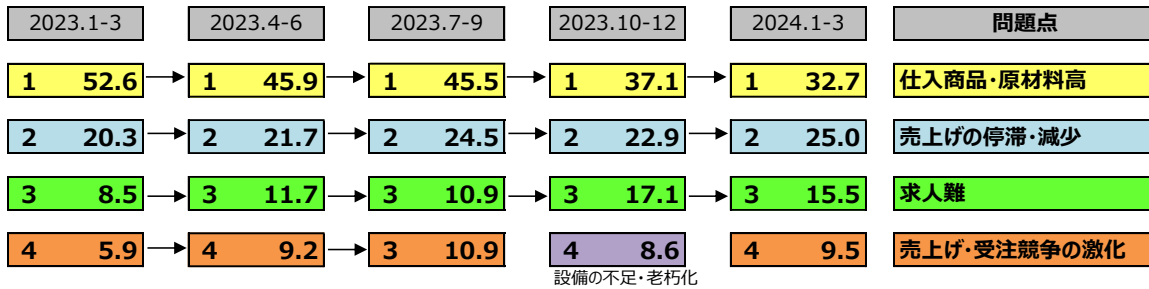
#### 当面する経営上の最大の問題点（単一回答）順位推移

全体

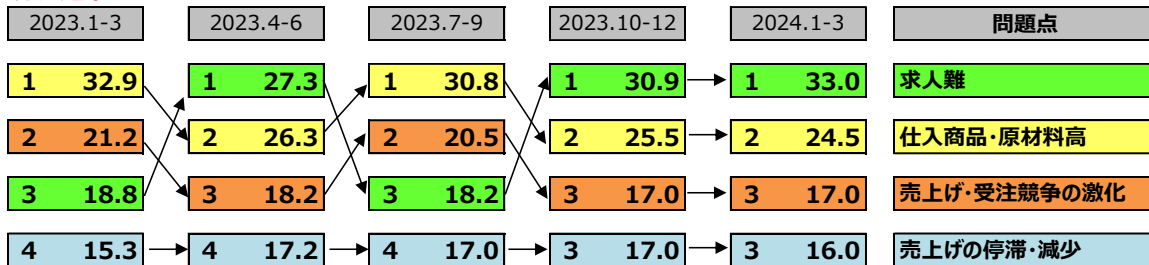
(単位：順位, %)



製造業



非製造業



当面する経営上の最大の問題点を尋ねたところ、「仕入商品・原材料高」と回答した割合が28.9%で最も高く、10期連続の1位となった。業種別でみると、製造業の上位2項目は10期連続で変動がなく、「仕入商品・原材料高」が32.7%で1位、「売上げの停滞・減少」が25.0%で2位だった。

一方、非製造業の上位2項目は前期から引き続き「求人難」が33.0%で1位、「仕入商品・原材料高」が24.5%で2位だった。

自由コメント欄では「原材料、燃料費、物価の高

騰、人件費の上昇圧力により中小企業の経営環境はますます厳しい（岐阜・プラスチック・その他製造業）、「物流対策等により資材価格の再値上げが実施される。円安により物価高が続くが景気の見通しが難しい（愛知・木材・木製品）」、「原材料高騰等が継続的に発生しているが、受注価格へ転嫁できず、同業他社による価格競争が激化しており、自社努力では厳しい状況（愛知・輸送用機械器具）」といった物価高や円安に苦慮する声が複数寄せられた。

## 4. 設備投資

今期、設備投資を実施した企業の割合は製造業が38.7%（前期比6.2 ㊦減）、非製造業が22.4%（同12.3 ㊦減）といずれも低下し、全体では31.3%（同8.8 ㊦減）だった。

来期、設備投資を予定する企業の割合は製造業が41.0%（今期比2.3 ㊦増）、非製造業が25.8%（同3.4 ㊦増）といずれも増加し、全体では34.1%（同2.8 ㊦増）となる見込みである。

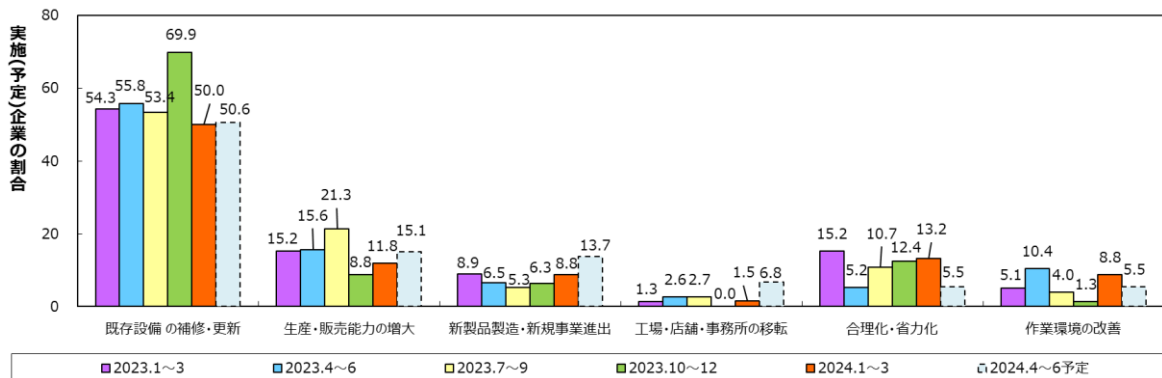
設備投資実施状況

（単位：％，百万円）

			全 体			製 造 業			非 製 造 業		
			実施企業割合	投資総額	1企業当たり平均投資額	実施企業割合	投資総額	1企業当たり平均投資額	実施企業割合	投資総額	1企業当たり平均投資額
2021	10~12	実績	37.6%	6,649	54	44.3%	5,623	76	28.4%	1,026	21
2022	1~3	実績	34.9%	4,175	67	40.2%	2,619	67	28.7%	1,556	68
2022	4~6	実績	29.6%	5,626	97	32.5%	4,158	116	26.1%	1,468	67
2022	7~9	実績	35.5%	6,426	55	42.7%	5,248	76	26.9%	1,178	25
2022	10~12	実績	31.5%	8,521	64	34.4%	6,223	84	27.5%	2,298	39
2023	1~3	実績	38.3%	11,271	157	45.8%	6,486	127	27.9%	4,785	228
2023	4~6	実績	33.2%	10,680	148	40.0%	6,871	146	25.5%	3,808	152
2023	7~9	実績	38.1%	15,915	114	46.9%	3,770	47	27.0%	12,145	206
2023	10~12	実績	40.1%	7,581	56	44.9%	3,210	43	34.7%	4,371	72
2024	1~3	実績	31.3%	12,337	190	38.7%	9,380	213	22.4%	2,957	141
2024	4~6	予定	34.1%	12,026	174	41.0%	7,556	168	25.8%	4,470	186

(%)

設備投資の主な目的



今期の設備投資の主な目的は、引き続き1位が「既存設備の補修・更新」で50.0%（前期比19.9 ㊦減）と大きく低下し2期前までの水準に戻った。2位が「合理化・省力化」で13.2%（同0.8 ㊦増）、3位が「生産・販売能力の増大」で11.8%（同3.0 ㊦増）、4位が同率（8.8%）で「新製品製造・新規事業進出（同2.5 ㊦増）」と「作業環境の改善（同7.5 ㊦増）」で、生産性向上に資する前向きな設備投資の割合が軒並み上昇した。

来期は、引き続き1位が「既存設備の補修・更新」で50.6%（今期比0.6 ㊦増）とほぼ横ばいで推移し、2位は「生産・販売能力の増大」で15.1%（同3.3 ㊦増）、3位が「新製品製造・新規事業進出」で13.7%（同4.9 ㊦増）と前向きな設備投資の増加傾

向は続く見込みである。

本調査の回答時期は、日本銀行によるマイナス金利政策解除の決定前であったものの、2024年春期労使交渉において大幅な賃上げを発表する企業が相次いだことなどから、近くマイナス金利政策が解除される可能性が高まっていた。自由コメント欄には「先行きが読みにくい故に投資の手が止まる（愛知・プラスチック製品・その他製造業）」など設備投資に慎重な声がある一方、「建築費高騰や金利上昇をふまえ、投資計画を前倒しで進めていきたい（愛知・卸売業）」、「人手不足のため自動化、合理化の設備は必要（岐阜・一般機械器具）」など積極的な声も寄せられた。

## 5. 雇用

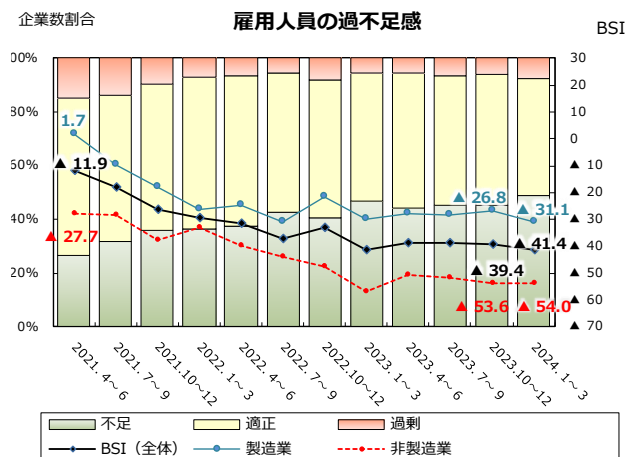
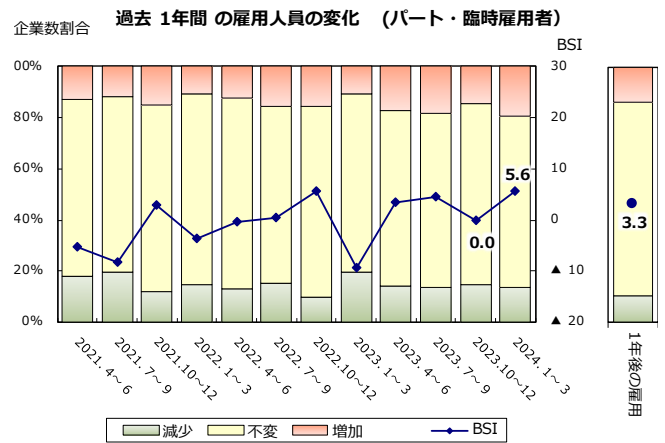
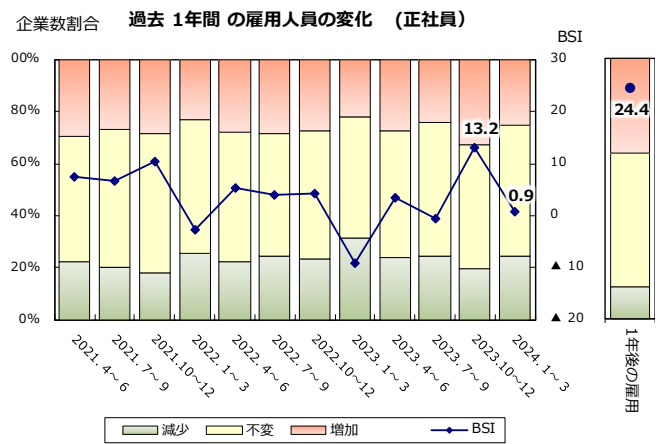
過去1年間の雇用人員の変化 BSI（増加－減少）は、正社員が0.9（前期比12.3 増減）と大きく低下し、パート・臨時雇用者は5.6（同5.6 増減）と上昇した。

また、1年後の雇用人員の変化 BSI は、正社員が24.4、パート・臨時雇用者が3.3 と、正社員の増加を見込む企業が多い傾向が続いている。

雇用人員の過不足感 BSI（過剰－不足）は▲41.4（前期比2.0 増減）と低水準で推移している。業種別にみると、製造業が▲31.1（同4.3 増減）と低下し、非製造業が▲54.0（同0.4 増減）とほぼ横ばいで推移した。

自由コメント欄では「少子化の影響が大きくなっている。人材不足（岐阜・サービス業）」、「生産インフラの老朽化、人手不足、高齢化で国内の生産力が衰退している。受注の話があっても生産リードタイムが長く、納期が合わずチャンスロスが増えた（愛知・繊維工業）」、「昨今の人手不足、建設業の人員不足を補うもしくは改善・変化していくために労働環境の整備に伴い安全や交通利便を考えていく（愛知・建設業）」など人手不足に関する多くの声が寄せられた。

（研究員 藤木 由江）





## 6. Data

回答企業の業種別構成

業種	企業数	構成比(%)
製造業	119	54.7
食料品	7	3.2
繊維工業	5	2.3
衣服・その他の繊維製品	2	0.9
木材・木製品	6	2.8
家具・装備品	2	0.9
紙・紙加工品	4	1.8
出版・印刷	6	2.8
化学工業	4	1.8
窯業・土石製品	17	7.8
鉄鋼・非鉄金属	10	4.6
刃物・金属製品	10	4.6
一般機械器具	10	4.6
電気機械器具	5	2.3
輸送用機械器具	14	6.5
プラスチック・その他製造業	17	7.8
非製造業	98	45.3
鉱業	1	0.5
建設業	31	14.3
卸売業	34	15.8
小売業	9	4.1
運輸業	7	3.2
サービス業	16	7.4
合計	217	100.0

回答企業の資本金別・従業員規模別・地域別構成

資本金	企業数	構成比(%)
1,000万円未満	12	5.5
1,000万円以上～3,000万円未満	86	39.7
3,000万円以上～5,000万円未満	39	18.0
5,000万円以上～1億円未満	50	23.0
1億円以上	30	13.8
合計	217	100

従業員数	企業数	構成比(%)
10人未満	18	8.3
10人以上～50人未満	81	37.3
50人以上～100人未満	52	24.0
100人以上～300人未満	46	21.2
300人以上～500人未満	10	4.6
500人以上	10	4.6
合計	217	100

地域	企業数	構成比(%)
岐阜県	146	67.3
愛知県	71	32.7
合計	217	100

十六景況判断指数の推移

四半期	2019.10~12	2020.1~3	2020.4~6	2020.7~9	2020.10~12	2021.1~3	2021.4~6	2021.7~9	2021.10~12	2022.1~3	2022.4~6	2022.7~9	2022.10~12	2023.1~3	2023.4~6	2023.7~9	2023.10~12	2024.1~3	2024.4~6予想
良くなった	13.9	8.4	6.8	8.3	12.0	23.4	42.7	27.6	31.5	20.9	24.3	22.2	20.6	23.4	28.1	27.0	39.2	28.6	20.3
横這い	48.1	39.0	19.5	22.0	31.1	36.1	33.4	50.0	42.2	46.1	40.7	42.3	40.6	39.5	44.7	45.1	42.2	47.4	59.0
悪くなった	38.0	52.6	73.7	69.7	56.9	40.5	23.9	22.4	26.3	33.0	35.0	35.5	38.8	37.1	27.2	27.9	18.6	24.0	20.7
十六景況判断指数	▲ 24.1	▲ 44.2	▲ 66.9	▲ 61.4	▲ 44.9	▲ 17.1	18.8	5.2	5.2	▲ 12.1	▲ 10.7	▲ 13.3	▲ 18.2	▲ 13.7	0.9	▲ 0.9	20.6	4.6	▲ 0.4